

留 学 報 告 書

記入日:2020年3月29日

所属学部／研究科・学科／専攻	国際日本学部国際日本学科
留学先国	マレーシア
留学先高等教育機関名 (和文及び現地言語)	和文: マラヤ大学 現地言語: Universiti of Malaya
留学期間	2019年8月～2020年3月
留学した時の学年	2年生(渡航した時の学年)
留学先での学年	2年生(留学先大学で在籍した学年)
留学先での所属学部等	<input checked="" type="checkbox"/> 特定の学部等に所属しなかった。
帰国年月日	2020年3月20日
明治大学卒業予定年	2022年3月
留学先大学について	
形態	<input checked="" type="checkbox"/> 国立 <input type="checkbox"/> 公立 <input type="checkbox"/> 私立 <input checked="" type="checkbox"/> その他
学年暦	1学期:9月～1月 2学期:2月～6月 3学期: 4学期: (記入例/1学期:4月上旬～7月下旬, 2学期:9月中旬～2月上旬)
学生数	
創立年	

留学費用項目	現地通貨 (リンギット)	円	備考
授業料	630×2学期分	31,538円	administration fee
宿舍費		140,000円	20リンギット/day(8月末～3月中旬)
食費	5500	125,118円	寮や学校のカフェテリアは一食平均5リンギット
図書費		円	
学用品費		3,000円	購入必須のマレー語の教科書と試験用の関数電卓
携帯・インターネット費	290	7,250円	SIMカードが1か月35リンギット(初回だけ45RM)
現地交通費	900	22,529円	(<input checked="" type="checkbox"/> 大学まで徒歩・自転車)
教養娯楽費	240	6,000円	授業に関係する日本語の本を現地で購入
被服費	2,400	60,000円	スーツケース1つで行ったので、現地で調達したものが多かった
医療費		58,665円	事前に日本で打ったワクチン(必須ではないが推奨の予防接種全部)
保険費	350	8,760円	形態:マラヤ大学で加入必須(+日本で明治大学で加入必須)明治のものは10か月で10万円程。
渡航旅費		150,000円	行きと帰り別で予約した。
ビザ申請費	680	17,025円	出発前に払う
雑費	1060	26,443円	日用雑貨
その他	7,802	176,610円	留学中の旅行(マレーシア国内5回と海外4回)
その他	322	8,029円	交際費・エンタメ(映画など)
合計		840,967円	多く見積もったので平均より上だと思います。 また現地で使うお金は月7万円程。

渡航関連	
渡航経路	
往路 出発地:羽田空港 目的地:クアラルンプール国際空港 経由地:シンガポール 復路 出発地:クアラルンプール国際空港 目的地:羽田空港 経由地:なし	
渡航費用	
①往復チケットを購入した場合 航空会社: _____ 料金: _____	
②片道ずつチケットを購入した場合 往路 航空会社:シンガポールエアライン 料金:約10万円 復路 航空会社:ANA 料金:約5万円 ∴合計:約15万円	
航空券購入方法	
<input type="checkbox"/> 旅行代理店(店名: _____) <input checked="" type="checkbox"/> インターネット(サイト名:Expedia) <input type="checkbox"/> その他(_____)	
滞在形態関連	
1)種類(留学中の滞在先)(例:アパート, 大学の宿舎など)	
<input checked="" type="checkbox"/> 学生寮(寮の名前:Kolej 10(Kolej Kediaman Kesepuluh/ Kolej Tun Ahamad Zaidi)) <input type="checkbox"/> アパート <input type="checkbox"/> ホームステイ	
2)部屋の形態	
<input type="checkbox"/> 個室 <input checked="" type="checkbox"/> 相部屋(同居人数 2 人)	
3)共有部分	
<input checked="" type="checkbox"/> バス <input checked="" type="checkbox"/> トイレ <input checked="" type="checkbox"/> キッチン(<input checked="" type="checkbox"/> 自炊可 <input type="checkbox"/> 自炊不可)	
4)住居を探した方法:	
大学の斡旋。入学許可証のための手続きの中のフォーマットで on campus の寮に住むか否かのアンケートに答える。入寮日の一週間前ほどにもう一度 on campus の寮に住むか否かの 구글フォーム が送られてくる。	
5)感想:(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)	
滞在先だった on campus の寮は正直、いい施設ではないが人との関わりが、off campus よりも多い。マレーシアよりも発展している国から来た留学生(主にヨーロッパ諸国と日本、韓国)は自分たちで学校外のコンドミニアムに住む人も多い。きれいではないし不便なこともあるので、自分が成長するための経験だと前向きにとらえられる人でないと住むのは難しい。	
現地情報	
1)留学期間中、病気やケガをしましたか。した場合、どこで治療を受けましたか。(例:現地の病院, 学内の診療所)	
<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり(治療を受けた場所:保険会社の提携先クリニック _____)	
2)留学期間中、学内外で問題はありましたか。あった場合、誰に相談しましたか。(例:留学先大学の相談窓口, 現地の友人等)	
<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり(問題の内容や相談した人等:大事な情報が事務室からではなく生徒からの口伝えでできたこと、留学先大学の留学生用の事務室や現地生)	
3)現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか?その際どのように対処しましたか?	
ネットの口コミやクアラルンプールに長年住んでいる現地生や日本人の老夫婦。実際に犯罪に巻き込まれたことはなかったが、多くの日本人がクレジットカードのスキミング被害にあった。	
4)携帯電話や、インターネットについて、現地での利用・接続はいかがでしたか。	
寮や学校のフリーWi-Fi は保護されていないセキュリティだった。接続が悪いこともあったが、1か月ごとに topup する SIM カードは安くデータ容量も多かったので困らなかった。	
5)現地での資金調達はどうに行いましたか?	
口座開設はしていない。デビットカードで現地の ATM からひきおとしていた。最初は日本であらかじめ現地通貨を2万円ほど用意していった。	
6)現地では調達できない日本から持っていくべき物があれば教えてください。	
特になし。	
7)【授業料負担型の方】授業料の支払方法、支払時期等について教えてください。(例:渡航前に自分で指定したクレジットカードで支払った、現地で開設した銀行のチェックで支払った。)	

学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入してください)

1) 留学先で取得した単位数合計	本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
12単位	<input checked="" type="checkbox"/> 9単位 <input type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由:)
2) 履修登録の時期・方法及び履修制限	
<input checked="" type="checkbox"/> 出発前 <input type="checkbox"/> 出発後 <input type="checkbox"/> 派遣先大学の事務室 <input checked="" type="checkbox"/> オンライン <input type="checkbox"/> メール <input type="checkbox"/> その他() ・履修の制限はありましたか? 1学期7授業まで。	
3) 以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4用紙で別途作成し、添付してください。	
履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Economic Development in Southeast Asia	東南アジアの経済発展
科目設置学部・研究科	Arts and Social Science, Department of Southeast Asia
履修期間	2019年秋学期
単位数	3単位
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	2時間の講義と1時間のチュートリアル(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に60分が3回
担当教授	Thirunaukarasu Subramaniam
授業内容	経済、貿易、発展の理論を学んだあと、東南アジアの例に当てはめてケーススタディしていく。
試験・課題など	課題は簡単に終わるもの。最終レポートは東南アジアの出生率の低下の原因と経済発展に与える影響について20ページ以上。中間テストはオンラインのものと教室でやる選択肢式のもの二回。期末テストは Human Development Index の計算問題と3題の論述問題を2時間で解く。
感想を自由記入	パワーポイントなどの資料がとても役に立った。先生は優しい。授業中やチュートリアル中は穏やかだが、課題や試験内容は易しくない。東南アジアの今とこれからが気になっている人には期待通りの内容が学べる授業だと思った。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Introduction to International Relationships.	国際関係学入門
科目設置学部・研究科	Arts and Social Science, Department of International Relationships
履修期間	2019年秋学期
単位数	3単位
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	2時間の講義と1時間のチュートリアル(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に60分が3回
担当教授	Jatswan Singh
授業内容	国際関係論について、基本的な概念を講義で習い教授は時事ネタに言及し現代の国際関係と繋がる講義。チュートリアルでは各週のテーマに沿ったプレゼンテーションを教授に決められたグループで行う。
試験・課題など	中間テストが1学期に2回。先生があらかじめ問題を知らせてくれるが、A4の紙四枚分のエッセイを30分で書く。期末テストは先生があらかじめ過去問と問題に出すトピックを教えてくれるので準備は十分にできるが、すべて記述問題。2時間で4題ほどの問題を解かなくてはならない。課題は1学期に1回のエッセイで、プレゼンの一週間後にプレゼンとそれに対する教授のアドバイスをもとに3000words書く。
感想を自由記入	授業でとりたいたいと思っている人には国際日本学部の国際関係論(Type1)を事前に履修することをお勧めします。私は留学前にその授業を履修したから何とか理解できたと感じました。その講義で使用したテキストは現地でも役に立ちました。現代の国際関係について日本では学ばないような視点で教えてくれるのでとても興味深かったです。現地生のうわさによるとこの授業を受ける Department of International Studies は Faculty of Arts and Social Science の中で一番難しい学科ともいわれているらしく、今思えば優秀で研究熱心な生徒が多かった気がします。

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Chinese Culture and Society in Southeast Asia		東南アジアの中華系民族の文化と社会	
科目設置学部・研究科	Faculty of Social Science, Department of Southeast Asia		
履修期間	2019 年秋学期		
単位数	3 単位		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	2 時間の講義と 1 時間のチュートリアル(チュートリアル, 講義形式等)		
授業時間数	1 週間に60分が3回		
担当教授	Ngu Ik Tien		
授業内容	現在も東南アジアに居住している中国本土に祖先をもつ民族がどのような組織を形成し、各国でどのように受け入れられ、どのように適応していったかを歴史的に地理的に分析する。チュートリアルでは毎週決められたグループがトピックを担当しプレゼンテーションを行いそれに伴う質疑応答やダメ出しがある。		
試験・課題など	中間テストはないが、online week の時に先生に出される選択式や穴埋め式の問題付きの課題が課される。エッセイは学期末にプレゼンの内容にそって 2 人で 4000Words。期末試験はあらかじめ出すトピックについて先生が説明し過去問も見るので充分準備はできるが、ほとんどが記述問題。		
感想を自由記入	教授が中華系マレーシア人だったので、マレーシアの例が多かったように思いますが、ひとくりに東南アジアの中華系とするのではなく、それぞれ異なった適応の仕方でも現代における中華系民族の在り方も違っていたことが興味深かったです。個人的には、東南アジアの経済発展が近年の中国の経済発展や中華系民族と関係があるのかを明らかにするためにこの授業を取りましたが、それに関係するトピックを扱う講義が少し少なかったので物足りなかったです。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Elementary Malay		初級マレー語	
科目設置学部・研究科	Faculty of Language,		
履修期間	2019年秋学期		
単位数	3 単位		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	3 時間講義(チュートリアル, 講義形式等)		
授業時間数	1 週間に 60 分が3回		
担当教授	Norfaizal bun Jamain		
授業内容	マレー語の基本的な会話について教わる。先生が教科書に載っている単語をの意味を英語で説明したのち、用意されたワークをやる。文法や語彙を大して習ってもない超初級なのにマレー語でマレーシアのことについてプレゼンする機会があったり、最後の期末テストには 120 語前後のエッセイを書かなくてはならない。		
試験・課題など	中間テストが 2 回とスピーキングテストがある。中間テストは授業中習ったこと以外にも教科書に書かれていることが、選択式や穴埋め式など様々な形式で出題される。スピーキングテストはあらかじめ先生が用意した問題のうち数題その場で聞かれるが、充分に対策は可能だ。課題は 1 学期に 1 週間だけある online 週間に出される。期末テストに関しては過去問は閲覧できないものの、あらかじめ先生が出題形式とトピックについて教えてくれる。		
感想を自由記入	マレー語超初心者にとってはすごい難しいことを要求してくると最初は思っていたが、授業を受け終わるころには自分のマレー語が予想以上に上達していて驚いた。最初はマレーシア人は英語が喋れるから意味ないでしょと思っていたが、学校内の食堂やナイトマーケットなど実践の場がたくさんあるし、現地人の友達はマレー語を話すときすごい喜んでくれて実用性があることに加えて、個人的にマラヤ大学の一番の楽単だと思ふ。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Urban Development in Southeast Asia	東南アジアの都市開発
科目設置学部・研究科	Faculty of Social Science, Department of Geography
履修期間	2020 年春学期
単位数	最後まで受けていない
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	2 時間の講義と 1 時間のチュートリアル(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1 週間に 60 分が3回
担当教授	Sheeba Nettukandy Chenoli
授業内容	都市開発論の基本について学んだ後、東南アジアの例を見ていく。主にマレーシアについて。
試験・課題など	最後まで受講しきれず、また途中からオンラインに変わったため全部は分からないが、現地の生徒とペアになって東南アジア国から一つを選んで都市開発するうえでの問題点を選びエッセイを書くものだった。
感想を自由記入	都市開発について、マレーシアではそれが進行中ということで授業で学んだことを肌で感じられる環境なので興味深かった。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Culture and Society in Southeast Asia	東南アジアの文化と社会
科目設置学部・研究科	Faculty of Arts and Social Science, Department of Southeast Asia.
履修期間	2020 年春学期
単位数	最後まで受けてない
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	2 時間の講義と 1 時間のチュートリアル(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1 週間に60分が3回
担当教授	Mala A/p Rajo
授業内容	最初の 2 週くらいで東南アジアの文化と社会の概要を学んだあと、一週ずつ一國に焦点を当てて深めていく。文化と社会と書いてあるが古典的なものから現代の政治体制にまつわるトピックまで扱ってくれる。先生とのやり取りが多い授業。
試験・課題など	最後まで受けていないのでわからないが、毎週のチュートリアルのために論文を読んだりプレゼンテーションを準備する。エッセイは短くても内容のあるものを書けば評価される。試験は受けていない。
感想を自由記入	先生の熱意がすごい。チュートリアルで一言も発さない生徒に対しては出席扱いにもしていなかった。文字と絵だけの単純なプレゼンテーションをあんまり好まないようにも感じた。ディスカッションに関しては、正しいとか間違ってるとかは関係なしに、取り合えず論理が通ったことを発言しておけばその場はしのげる。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Political Development in Southeast Asia	東南アジアの政治的發展
科目設置学部・研究科	Faculty of Arts and Social Science Department of Southeast Asia.
履修期間	2020 年春学期
単位数	最後まで受けていない
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	2 時間の講義と 1 時間のチュートリアル(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1 週間に 60 分が3回
担当教授	Chong Wu Ling
授業内容	丁度授業を受けているころ、マレーシアの首相が交代する時期だったのでその話が多かった。マレーシアの政治についてが主なトピックで比べる対象として他の東南アジアの国の例を出していた。
試験・課題など	決められた論文を読んでエッセイを書く課題。途中からオンラインに変わったからか、本来もこの形式だったのか分からないが、チュートリアル用に作られた質問に対する準備。試験は受けていない。
感想を自由記入	予備知識がないのできつく感じた。英語で説明した後マレー語でも説明される授業なので、効率がいいとは思わない。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
ASEAN Identity and Development	ASEAN の発展
科目設置学部・研究科	Faculty of Arts and Social Science, Department of Southeast Asia.
履修期間	2020 年春学期
単位数	最後まで受けていない
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	2 時間の講義と 1 時間のチュートリアル(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1 週間に 60 分が 3 回
担当教授	Chong Wu Ling
授業内容	ASEAN がどうやってできたのか、そして何の目的を持って活動しているのかについて学ぶ。
試験・課題など	決められた論文を読んでエッセイを書く課題。チュートリアル用に作られた質問に対する準備。
感想を自由記入	ASEAN がなんで、どうやってできたのかについてすごい細かかった。ASEAN ができてからのものは受けていないのでわかりません。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
East Asian Society	東アジアの社会
科目設置学部・研究科	Faculty of Arts and Society, Department of East Asia
履修期間	2020 年春学期
単位数	最後まで受けていない
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	2 時間の講義と 1 時間のチュートリアル(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1 週間に 60 分が 3 回
担当教授	Nurliana Binti Kamaruddin
授業内容	東アジア(主に日中韓)について、週に 1 つトピックがありそのトピックについて日中韓の共通点や相違点などを講義で学ぶ。チュートリアルではそのトピックに関連したプレゼンテーションを 2 組する。
試験・課題など	チュートリアルのためのプレゼンテーションを教授が決めた 3 人 1 組のグループで行う。エッセイもある。試験は受けていないので詳細は分からない。
感想を自由記入	日本においては学べない視点で日中韓の共通点や民族構成を学べたのが興味深かった。

卒業後の進路について

1) 進路 ※3年生以下の方は今後の予定を記載してください(下記 2 以降は記入不要)

就職 進学 未定 その他:

2) 進路決定の際に活用したウェブサイト、書籍、機関など

3) 就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。(内定を得た企業すべての名前、あるいは入社すると決定した企業の名前のみでも構いません)

※就職活動をこれから始める場合は、差し支えなければ現時点で希望する業界、職種等を教えてください。

4) 就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスをお願いします。

※就職活動をこれから始める場合は、留学経験を通して就職活動に対する意識や希望する就職先の変化等を教えてください。

5) 進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。

6) 進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)をお願いします。

7) その他を選択した方は、その進路を選択した理由と、留学希望者に向けたアドバイスをお願いします。

留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。例：語学試験の勉強、選考、出願、ビザ申請・取得、航空券購入、予防接種、滞在先の確保、留学中の中間試験、期末試験、その他イベント等

2018年 1月～3月	
4月～7月	明治大学入学後、留学情報が提供されるあらゆる説明会に足を運び、留学経験者と実際に話をし、行きたい国をマレーシアに絞った。
8月～9月	11月のトフルに向けて集中勉強。並行して、留学志望理由書を書き始めるため、留学先と志望大学についての情報収集。
10月～12月	11月にトフルを受けその結果で応募することを決心した。志望理由書、特に英語のものは帰国子女の友達や明治に来ている英語が話せる留学生に添削してもらった。11月末に書類の締め切り。 12月に面接とその結果が出る。
2019年 1月～3月	返済不要の奨学金を探していた。3月には春休みという機会を利用して、留学先のマレーシアに家族で下見をしに行った。
4月～7月	派遣先大学への出願。大学や自分の情報をフォームに入力し、写真やパスポートのコピーなどの必要書類をアップロードし、希望する授業も選択。入学許可証が下り次第、学生ビザに必要な Single Entry Visa 発行の手続きをする。並行して6月中旬から必要だと思われる予防接種を受け始めた。online 上でのビザの手続きが終了し先方から許可が下りたら、大使館に行く。
8月～9月	入寮日がようやくわかったので、航空券を予約。空港送迎サービスを希望するか否かと寮に滞在するか否かのフォームが1週間前ほどに送られてくる。 8月26日出発。28日からオリエンテーション。学生ビザ発行手続き。9月の最初2週間は履修登録期間。
10月～12月	10月末に学生ビザのために提出していたパスポートが返ってくる。11月に1週間ほどの休みがある。その休みの前後は中間テストや課題が多かったりする。11月末に大学祭国際版のようなものにチーム日本として出店。12月初旬に留学生のための大規模なパーティがある。12月最終週から期末テストが始まる。期末テストの一週間前も休み。その前の週にレポート提出する授業が多い。
2020年 1月～3月	1月期末テスト終了次第学期間休みに入る。2月中旬から新しい留学生達が入寮し始め、新学期が始まる。3月末新型コロナウイルスの影響で本帰国。
4月～7月	本来ならば6月29日に帰国予定だった。
8月～9月	
10月～12月	

留学体験記

この留学先を選んだ理由、留学生活全般について、留学を志す後輩学生へのアドバイスなどを自由に記入してください。

マレーシアを留学先を選んだ理由

留学といったら、アメリカ、カナダ、オーストラリア、ヨーロッパ諸国などを思い浮かべたり、「海外」「多様性」という概念が日本ではまだ欧州のことを指すのが主流という状況に疑問を抱き、日本が所属するアジアはどうなんだろうと考えたことがきっかけでまず、地域を東南アジアに絞りました。欧州でも多様性は学べるかもしれませんが、マレーシアで学ぶ多様性は、おもに中華系民族やインド民族の子孫に加えて近い東南アジア諸国から労働をもとめマレーシアに移民した人など、アジアの中にある多様性です。このアジアの中にある多様性は、今後日本が関わっていくべき問題なのではないかとも考えていました。マレーシア(クアラルンプール)を留学先を選んだ理由は、日本よりも発展していない国に長期滞在することで留学を成長機会にするという目標を持っていた、英語が広く使われていること、日本で避けられがちなイスラム教が国教であること、様々バックグラウンドを持つ人々が生活しているため多様性を学ぶ環境であること等々。またマラヤ大学を選んだ理由は、東南アジア学科という専攻があったことや留学生の数多かったこと、そしてマレーシア最古の大学かつ世界大学ランキングにも 100 以内でランクインしているなど、優秀な学生とともに学習できるといったことが理由でした。

留学生活全般について、毎日予想もしないことが起こるので一言で表すのは難しいが、語学力などのハードスキルに加えてソフトスキルも身についた留学でした。この報告書では、1 人間関係 2生活面(主に寮生活) 3語学力と授業 に焦点を当てて書きます。

1. 人間関係について、私のような人とも友達になってくれたり、声をかけてもらったりすることが多かったので過度に不安がる必要はないです。しかし、せっかく留学に来ているのだから他の国から来た人と友達になるチャンスが多いのでそれを無駄にしないように。どこの国の人も最初はその国から来た人達で固まる傾向があったりして難しい。私の場合は前期のルームメイトが日本人だったのでとくに難しかったが、せっかくマレーシアにいて日本人とばかり行動するのは勿体ないと考え、違う国から来た人々が集まる機会があれば欠かさず行ってました。空港送迎サービスで出会った友達やオリエンテーションで出会ったバディ(留学生の手伝いをしてくれる現地学生)、寮で毎回すれ違う人に声をかけてみたり、授業のプレゼンが一緒だった現地学生だったり、探せばたくさん機会はあります。最初の1 か月は慣れない環境のなかストレスも多いですが、どの留学生も観光客気分毎週末観光地に行きたがるので、できるだけそれに参加するなど行動を変えるだけで人間関係は広がります。教育機関や政府が出す情報は遅かったりマレー語で言われるものも多いので、現地学生の友人は本当に助かります。マレーシア人は親日が多いので、マラヤ大学の留学センターのバディはすごい親しくしてくれます。逆にイギリス人の友達やインドネシア人の友達は、バディたちが日本人や韓国人にえこひいきしていると不満を言っていました。入寮日直前にマラヤ大学の留学センターから自分のバディの子たちの連絡先が教えられるので、そこで連絡を取っておくことを強くお勧めします。

2. 生活面に関しては、日本より生活水準が低いとはいえ、住めば都です。マレーシア全土ではないのですが、クアラルンプールは、耐えきれなくなったとき、マレーシアの平均物価より高い金額を払えば東京と変わらない生活ができるレベルです。大学が提供する寮に耐え切れず、外のコンドミニアムに住む人もそこそこいます。外に住む選択肢もありましたが、私が最後まで不便な大学内の寮に住み続けた理由は、人脈と経験値です。ルームメイトから増える人脈だったり、みんなで集まり会話やスポーツをする機会も外に住む人より多いです。経験値としては、不便が多い環境のなか仲間と this is our challenge と言い合っただけで前向きにとらえる精神力が一番の収穫かなと思います。寮に住んだ経験以外にも、初めのほうはストレス状況に直面することが多くありましたが、何が起ころってこれらは自分の成長機会だと捉える姿勢が大切です。

3. 語学力の面でいうと、英語が母国語ではないものの現地の学生は英語で行われる講義を難なくこなしていたように感じました。しかし、英語は外国語として学習している人が現地生も留学生にもおおいので完璧な英語を話さなくてはいけないといったプレッシャーを感じずに、間違えても伝わればいいやと気軽に話すことができる環境でした。また、英語が母国語ではないということは、英語力の差よりも知識・教養の差のほうが重要です。留学前にやっておいたほうがよかったと後悔したのは自分が履修希望していた科目について予備知識をつけておくことと中国語の勉強です。中華系民族の多くと留学生の半数は中国語話者なのでマンダリンチャイニーズの練習相手がたくさんいます。授業は1 授業につき 120 分の講義と 60 分のチュートリアルで構成されています。教授によりますが、課題や試験は明治大学で学んでいたものより難しいです。しかし、難しい分深く学べます。特にチュートリアルではディスカッションとプレゼンをすることが多く、講義で習ったセオリーに当てはまる事例を探さなくてはならないので、準備が大変ですが理解できることが増えます。教授の配慮もあるのか単位を落とすといった話はほとんど聞かれません。制度が整っていない授業もあるとマイナスな噂も聞きました。

最後に、マレーシア留学を志す学生は一般的に留学先として人気な欧米諸国と比べると少ないですが、その分みんなとは違ったオリジナルな留学ができます。制度が整っていなかったり、マレーシアタイムと言われるほど人々はのんびりしていたり、電車やバスの公共交通機関にはまだまだ改善の余地があったりと、日本の生活に比べて不便なことはたくさんあったけどこの国を留学先として選んでよかったと心から思えるのは、この留学で身につけた柔軟な対応力、寛容な心、何事も前向きにとらえる精神力は日本や他の同レベルの先進国ではつけられないからです。少しでもマレーシアが気になる人は、ぜひ留学することをお勧めします。旅行で一度行ったこともありましたが、長期滞在することで良さが分かる国です。ここには書ききれないほどの経験と思い出があるので、気になる人は連絡ください。